

**特別講義** (2単位)

担当者氏名 小栗 秀、吉田 穂積、寺澤 和彦、亀山 祐一、中村 隆俊、相馬 幸作、平山 博樹

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

専門分野に関連の深い国内外の学会・研究会・国際シンポジウムなどで発表したものについて、その内容、質問への対応、関連する他の発表への質疑応答、自己の意見などを詳細にレポートにまとめる。または、重要な学会等に参加した場合、関連する発表の内容と質疑応答、自己の意見などを詳細にレポートにまとめる。プレゼンテーション技術演習で習得した技術を用いて、レポート発表を研究科全体のセミナーで行い、審査により、単位として認める。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

作物生産	自然生態系	植物資源	バイオテクノロジー
分子生物学	動物資源	家畜生産	発生工学

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	学会要旨の作製とエンターリー (第1週)	・科学的な表現、簡潔な文章構成を指導教員の添削を通して学ぶ。	◎学会参加にあたっては指導教授と綿密なディスカッションを行うこと。
2	発表準備 (第2-6週)	・発表内容をパワーポイントで作製しながら、指導教員の添削を通して表現方法と科学的な表現を学ぶ。	◎発表に際しては、入念な準備が必要である。
3	学会発表 (第7-11週)	・発表原稿を作り、論理的な説明となるように原稿を繰り返し添削指導する。研究内容の発表を行う。	◎発表を聞いた後にすぐにレポートをまとめよう。
4	学会参加 (第12-13週)	・真剣に聞き、発表内容に沿った質問をする。	◎発表の感想ではダメ。事前に論文を調べ、バックグラウンドを説明できるようにする。
5	レポート作成 (第14週)	・適宜文献を参照し、発表の要約を作成する。	
6	レポート発表 (第15週)	・参加した学会の自信の発表内容と、注目した発表数演題の内容を紹介する。	
	(第1-15週は、履修者の指導教員が担当する。)		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

指導教員から適宜配布される

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

医学・生物学研究者のための絶対話せる英会話/東原和成 他/羊土社 (1999)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート発表により評価する。

◆オフィスアワー

昼休みに各指導教員の居室を訪ね、不在の場合は居室の掲示で確認する。メモを残す、メールで質問するなどの対応をしてください。

◆その他受講上の注意事項